

各位

2022年4月28日
株式会社Enjin

2022年5月期第3四半期 質疑応答集

この質疑応答集は、2022年4月14日に公表いたしました2022年5月期第3四半期決算に関しまして、決算発表以降、株主・投資家の皆さまからのお問合せやアナリスト・機関投資家の方々との1on1ミーティング等において頂戴した主なご質問をまとめたものです。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

質問1： 2022年5月期第3四半期の時点で、営業利益の進捗率が90%を超えていたにもかかわらず、業績予想の上方修正がなかったのは、第4四半期にかけて何か大きな投資や費用の発生があるのでしょうか。

回答 現時点では、第4四半期にかけて大きな投資等は考えておりません。
しかしながら、第4四半期におきましては、新設した営業拠点に伴う費用や新卒社員・中途社員の人件費等、第3四半期までよりも多少コストが増加することが見込まれており、営業利益率は微減するものと考えております。業績予想の上方修正に関しましては、当社内で検討いたしました。投資家の皆さまの投資判断に影響を与える重要な情報ですので、精度の高い将来予測値を慎重に算出のうえ開示すべきだと判断し、このタイミングでは行いませんでした。ただし、今後、業績予想の開示基準（営業利益+30%以上）に該当した場合には、速やかに開示をさせていただきます。

質問2： 2022年5月期第3四半期の売上高の進捗率70.8%は計画どおりでしょうか。また、残りの29.2%を第4四半期で達成する見通しは立っていますでしょうか。

回答 売上高の進捗は計画どおりです。前期第3四半期においては進捗率71.4%であり、ほぼ同水準の進捗となっておりますので、第4四半期に向けて、下期偏重型モデルにより順調に推移していると見ております。

質問3： 売上高におけるプラットフォームサービス事業の割合が順調に伸長しているようですが、各事業のポートフォリオとして最終的にはそれぞれどのような割合を目指していますか。

回答 現時点では、最終的に目指すポートフォリオについて公表していない状況ですが、メディックを主軸としたプラットフォームサービス事業が安定した収益基盤の1つになるべく、今後も継続的に成長ができるものと考えております。

質問4： 顧客あたりの平均契約単価・平均契約件数は、緩やかに上がっていくように感じますが、いかがでしょうか。

回答 結果論として、その可能性は考えられます。
しかしながら、当社がターゲットとしております中小・中堅企業または医療機関の場合、PRに割ける年間の予算は限られている傾向にありますので、単価が上がると件数が下がったり、逆に件数が上がると単価が下がったりすることが想定されます。そのため当社といたしましては、お

お客様のニーズに合わせたサービスを、お客様に喜んでいただける適正値でご提供し続けることを目指しております。

質問5： 売上総利益率・営業利益率の向上の要因は何でしょうか。

回答 プラットフォームサービス事業の売上高の割合の増加により売上総利益率が向上しております。また、その積上げに加え、社員の退職に伴い人件費が減少したことにより営業利益率が高い水準で維持されております。

質問6： 社員数は増加しましたか。また社員の離職問題の対策はいかがでしょうか。

回答 新卒社員・中途社員が入社したことにより、現時点において社員数は増加しております。また第2四半期までに発生した社員の離職対策といたしまして、2022年4月の新卒社員に対しては、入社前後の業界・業務に関するイメージのギャップが発生しないよう、入社前研修の充実を図りました。また、コミュニケーションロスの解消として、営業拠点を新設し、実稼働させております。

以上



株式会社Enjin

コード番号：7370 東証グロース

Contact /

取締役 コーポレート本部本部長 平田佑司
TEL 03-4590-0808 (代表)